

## 台湾における一般登山の現状と課題

曾根正和 (Taipei Hiker Club 主催者)



玉山主峰 北峰から望む

(巻頭写真 北峰から見る玉山主峰 面している北壁の初登攀は昭和13年の早稲田大学遠征隊)

日本の皆さんには新高山という名はご存じだと思う。日本が1895年に接収した新領土台湾に聳える富士山より高い標高3952mの玉山に対して、明治天皇が名付なさった名前だ。このことが示すように、ほぼ九州ほどの大きさの台湾島に、富士山より高い七座を含め標高3000m以上の山峰が2百数十座ひしめいている。台湾の高山は、筆者の印象でいえば、日本の南アルプスをさらに数百メートル高くした山々が北から南へ台湾島の背骨を構成している。日本統治時代（1895年－1945年）後半に多くの台湾高峰を歩いた千々岩助太郎著の『思い出の山々』のなかで、『昭和11年に…白馬岳の麓に住んで山案内を職業としている丸山静雄さんが台湾に見えて、次高山<sup>(1)</sup>、大霸尖山、南湖大山方面を登られたが…「台湾の山は山が高いが故か非常に大きいように思う。内地の日本

アルプスの山などは公園の中の山で、台湾の山は山の中の山だ」と…語られた…』と著している。登山の現状を語る前に、少し台湾の山岳自然や歴史背景について述べ、その前提知識としたい。

なお、筆者は学生時代に山岳部などで日本の山々を歩いた。台湾は30年ほど在住し、仕事人生が一段落した後12年ほど、積極的に台湾の山を中心に登ってきた。その間に登山グループ Taipei Hiker Club を主宰し、

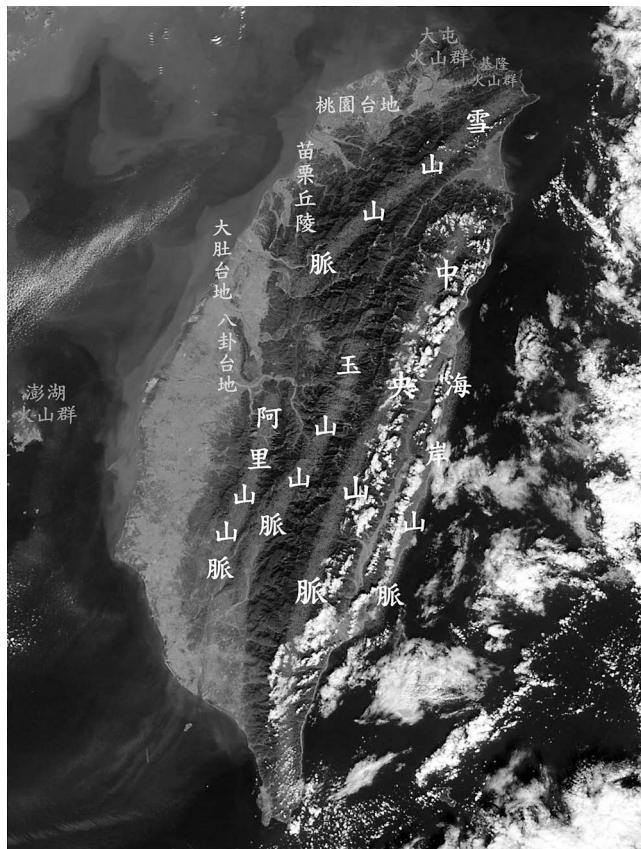
台湾の山仲間と登っている。6百数十回の登山（日帰りから数日の縦走まで）の記録や簡単なガイドを次のブログに載せている。

<https://taipeihiker.blogspot.com>

### 1. 台湾山岳の自然環境

3000m峰を擁する雪山山脈、中央山脈、玉山山脈が台湾島の主要な山岳を構成し、それと並行した西側の阿里山山脈、また東側太平洋に面した海岸山脈の五大山脈がある。このうち中央山脈は北は宜蘭の蘭陽平野南端から始まり、南は台湾島南端の鵝鑾鼻まで約500kmに達する。雪山山脈は、第二の高峰雪山主峰を擁し中央山脈の北部西側に並行し、台湾島の中間地点まで終わる。台湾最高峰玉山主峰とそれに次ぐ数座を有する玉山山脈は、中央山脈の南部

西側に並行するが、三山脈の内最短である。上記の山脈峰々に加え、北部の陽明山火山帯や西側の丘陵など、台湾36,000km<sup>2</sup>国土総面積の内、標高100m以上の丘陵や山岳が4分の3を占める。日本と同様に島国であるとともに山国である。(図1 ウィキペディア資料)



(図1) 台湾山岳分布

一部の秘境を除いてこれら山々には登山道が開かれ、登山活動が行われている。環太平洋火山帶上に位置する台湾は、温泉も多い。

亜熱帯に属する台湾は、低山地ではオオタニ



(写真1) 扁柏@羅馬縦走ルート

ワタリやシュロ類などが生えるジャングルのような広葉樹林がある一方、高度を上げると湿潤な中高度域ではヒノキ(写真1)などの針葉樹が、そしてさらに高度を上げると台湾ツガやニイタカトドマツなどの亜寒帯の樹木が生息する。さらにシベリアで大木となるビャクシンが、条件が良いところではかなり大きくなるが、日本ではハイマツが生えるような稜線上で低木として生えている。つまり垂直方向に幅広い森林生態分布がある。花でも日本の高山でみると多くの類似高山植物が観察されている。例えば、ウスユキソウも、台湾亜種としてのニイタカウスユキソウが見られる。

日本カモシカと同種の山羊、日本には無い大型草食動物水鹿(写真2)、数が少ないが台湾ツキノワグマ、ホエジカ、サル、イタチなどが生息する。鳥類では、珍しい台湾固有のミカドキジなど、高山で出会うこともある。ミカドキジは、日本統治時代に発見されその標本が明治天皇に献上されたので、ミカドの名前が付けられた。現行の千元札には、玉山主峰とともにミカドキジが描かれている。



(写真2) 水鹿@磐石山營地

## 2. 台湾登山の歴史

台湾は山国であるが、登山は近年まで一般大衆にとっては身近ではなかった。それは次のような歴史

## 2. 登山界の現状と課題

的背景による。台湾は、本来居住していたポリネシア系の原住民の土地に、明朝のころから中国の主に福建、廣東など南部地帯から漢人が移民してきた。西側平地原住民は次第に漢人化された。山中で焼き畑農業や狩猟を営んでいた山岳原住民は、漢人の進入を拒んだ。平地人がみだりに山に入ると首をかられ命を落とする恐れがあった。原住民は近くの顕著な高峰を聖山としてあがめたが、平地人は宗教的な視点はなく、日本で盛んにおこなわれた富士登山をはじめとする大衆宗教登山はなかった。

時代が進み19世紀には樟腦（その原料クスノキ）などの山中資源入手の安全確保のため、清朝統治末期による平地人と山岳原住民との境界とでもいう隘勇というシステムが導入された。平地人が山岳原住民に襲われないための防御システムである。

その後日本統治時代にも山岳原住民の地域は蕃地と呼ばれ、当初は一般大衆は入ることを禁じられた。初期には政府による調査探検登山、地図測量登山などが行われる。隘勇システムは引き続き採用され、主に稜線上で幅広く樹木を刈り取った道を開き、そこに監視拠点や管理拠点（写真3）を設け原住民の往来を管理した。政府は太魯閣戦役（1914年）など武力によって原住民の反抗を抑えていく。帰順が進み山での安全が確保されてくると、一時的な隘勇システムから原住民部落をつなぎ山を越えていく恒久的な警備道が開かれ、山岳地の



（写真3）通電ワイヤーの隘勇線

えていく。帰順が進み山での安全が確保されてくると、一時的な隘勇システムから原住民部落をつなぎ山を越えていく恒久的な警備道が開かれ、山岳地の



（写真4）八通關警察官吏駐在所



（写真5）八通關古道の大分駐在所跡に残る殉職記念碑



（写真6）ワバノ駐在所遺跡  
(手前の建物の中には日露戦争戦勝品ロシア製大砲がある)

管理システムが構築される。警備道上には多くの警察官駐在所が設けられた（写真4）。今でも当時の殉職記念碑（写真5）や駐在所跡（写真6）などが残っている。

暇と金が必要なスポーツ登山活動は、当時はまだ支配階級であった日本人がメインであった。登山者は、蕃地の深い山に入る際には、入蕃證という許可書を当該地区の役所で入手する必要があった。台湾山岳会が創設された1920年代中ごろから、高山登山も広く始まるが、当初は警察官が同行するなどの必要もあった。原住民は道案内やポーターとして参与した（写真7）。中央山脈を東西に横断する合歡越警備道、能高越警備道、八通關警備道などは、警察駐在所が登山者の宿泊や食事を提供し、今日の山小屋的なサービスもあった。多くの高山も当時の登山者によって初登が行われていく。新高山学生集団登山なども、こうしたルートで行われている。低山では、国民的な運動としての登山も行われていた。実は、台湾のアルピニズムは日本人がもたらしたといえる。今は陽明山国家公園がある陽明山は、1935年に大屯国立公園が設けられた。



（写真7）日本統治時代の日本人登山者と原住民

戦後日本が去ったあとも、入山制限は続いた。中國本土共産党政権との緊張があり軍事的な理由から、里山的な低山以外では、警察が発行する入山證を申請入手する必要があった。等高線地図なども、軍事的理由で入手が困難であった。それでも、熱心な台湾登山者団体や学校山岳部などの登山者が登っている。1976年に選定された標高3000m以上の山百座を

選んだ百岳は、その一成果である。台湾一般民衆の登山に対する認識が変わり、広範な大衆登山は、ここ20～30年というところである。数年前には、政府は登山制限の緩和を打ち出し、登山人口も増えすそ野を広げている。まだ、地方政府ごとで必要なところもあるが、入山證は廃止され始めている。

### 3. 台湾での登山の現状

#### （1）登山にかかわる環境

台湾の山は一般に便宜上、標高1500m以下の郊山、1500～3000mの中級山、そして3000m超の高山という分類をされる。登山活動なども、特に郊山は都市などからの交通便もよく多く登られている対象である。自宅近くの郊山であれば、ほとんど日帰り登山である。困難な場所も少ない。中級山は、その標高からして高山ほどの高さはないが、山が深いところが多く、一部は日帰りもできるが山中泊が必要な場所が多い。特にあまり歩かれていない場所は、道の状態もあまり良くない。高山は、多くは雪霸國家公園、太魯閣國家公園及び玉山國家公園の管理下にあり、通常ルートは公園によってメンテされているので、状態はよい。

#### 登山道

登山道の管理メンテは、國家公園や山林の多くを管理する林務局、そして主に低山では地方政府が行っている。高山や中級山では日本統治時代の警備道、森林開発時の廃棄林道<sup>(2)</sup>などが利用されているところも多い。但し、長年の台風や豪雨地震などによって、崩落したところなども多く、メンテされず高巻き道などで通過するような対応がある。それ以外にも中華民國山岳協会などをはじめとする登山団体や民間ボランティアが、近郊低山などの道の整備や一部新たな道を開くところもある。里山的な低山は私

## 2. 登山界の現状と課題

有地が多く、大部分の土地所有者は默認しているが、嫌って排除するようなケースもまれにある。

### 山小屋・野営地

台湾の山小屋は、主に高山ルート上に存在する。その数は山岳の規模に対し、特に日本の山小屋と比べると、まだ少ない。国家公園及び林務局管理下の山小屋は、現在では雪山山脈で10、中央山脈で27、そして玉山山脈で2、計39カ所である。目下2カ所新たな小屋（ともに雪山山脈）が建設中である。

台湾の山小屋は、多くは管理者がいない無人小屋である（写真8）。収納人数も数人から20～30人の物が多い。登山者が多い雪山ルートの三六九山屋、大霸尖山ルートの九九山屋、能高越嶺道の天池山荘、



（写真8）中央山脈大水庫山屋（収納20人）



（写真9）排雲山荘

玉山の排雲山荘（写真9）、嘉明湖ルートの嘉明湖山屋、向陽山屋、北大武山の檜谷山屋は収納人数も多く管理人がいて有料である。排雲山荘は、食事を提供している。その他の山小屋でも食事を提供しているところがあるが、協作と呼ばれる業者が行っているので、料金も宿泊とは別である。無人小屋は、現状では宿泊費は徴収していない。

野営地は、山小屋の付近に設けられているものもあるが、それ以外の場所にもある。テント数張の小さなものから大きなものまである。これらも現状では、料金は徴収されない。國家公園管理範囲などでは、指定地以外の設営は禁止されている。

### アクセス

都市近郊の低山は、地下鉄、鉄道およびバスなどの一般交通機関で登山口まで行ける場所が多い。一方、高山になると雪山山脈の一部や中央山脈合歡山周辺、玉山などは路線バスが近くまでいくが、その他は鉄道やバスで付近まで行くとしても、最後のアプローチは地元の往復サービスを利用する必要がある。或いは、台北などの都市から山岳往復サービスの車を利用する。最近は、大霸尖山ルート入口の觀霧までの路線バスルートが開かれるなど、改善があるが大部分はまだ自家用車などで行くか、上記の山岳サービスの車が必要である。中級山も高山と同様に多くはアプローチは一般交通手段はなかなかない。

### 登山の事前許可書

日本の登山と大きく異なるのが、事前許可制度である。上述の歴史的な背景の延長でもある。国家公園管理下のルートは、事前にネットなどを通じて申請し入園許可書（図2）を取得する必要がある。縦走などではルート上の山小屋や露営地を含む申請になる。人数制限があるので、特に連休などの時期はな

雪霸國家公園生態保護區入園許可證						
申請編號：S105002127						
雪霸國家公園生態保護區入園行程及名稱						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 路線：(A級) 雪山主峰線(多日行程)</li> <li>• 進出日期：自 105-04-21 起至 105-04-23 止</li> <li>• 休憩地點：七仙山莊、三六九山莊</li> <li>• 預算：食宿費</li> </ul>						
請於申請之後，不得擅自變更宿營地點及行程；如因氣候變遷或重大天災等狀況，經公告禁止入園後，應聽從現場管理人員之勸阻勿再攀登山行進，本證廢止並依法罰鍰。						
附註：Taipei Hiker Club						
日期	行程	宿營地及床位				
(2016-04-21)	雪山登入口→七仙山莊	【七仙山莊】床位：7.8.9.10.11.12.13.14.				
(2016-04-22)	七仙山莊→雪山東峰→三六九山莊	【三六九山莊】床位：43.44.45.46.47.48.49.50.				
(2016-04-23)	三六九山莊→七仙山莊→三六九山莊→雪山東峰→七仙山莊→雪山登入口					
環境衛生計畫						
<b>緊急災難處理</b> 1. 遵守進入國家公園生態保護區之相關規定。 2. 充分瞭解無痕山林原則，減輕環境之生態衝擊。 3. 避免影響野生動物，不留下任何廢棄物及物品。 4. 不離開已開放供使用之步道或區域。 5. 配合國家公園保育巡守及行動，並協助導隊導員言行舉止。 6. 留守人 默約電話：[REDACTED]						
注意事項：						
1. 入園許可證核發後不得提供人員、日期更換之申請。如需更換人員，請另申請新證，原證恕不受理。						
2. 入、出生年歲請擇選入園許可證2份及身分證明文件，全家兩重印系統（GPS）及可供緊急聯繫之通訊設備，並隨時接受國家公園管理局及國家公園警察隊檢查。						
3. 請依許可證時間範圍提出宿地點查詢，並依據進山申請內容，接受保育單位審批，到數安妥，勿另佔用其它床位。如無法如期前往，須於入園前1日自行上網註銷申請（整件取消或將部分隊員，于已開設的申請中請刪除此申請）。						
4. 從雪山登入口服藥站進入之登山遊客，必須戴登山安全帽及穿著運動鞋，以免許可證核發後迷路而遭危險。						
5. 為維護山巒設施及生態環境，廚餘及廢棄物請攜帶下山，禁止傾倒樹幹、廢棄物至樹幹表面，或任意遺棄。						
6. 為避免在火所引起的熱帶等危機，禁止攜帶寵物進入國家公園生態保護區及各別景觀區。禁止攜帶野生動物及放生、烹煮動物：請山友不要接觸野生動物，如遭野生動物攻擊、咬傷，應立即下山至醫療就醫。						
7. 請山友勿任意變更核准路線或行程，並禁止在指定以外之地點露營、搭設帳棚、便池隨意上廁所外炊煮、燃火、飲乾淨水節期間，特別提高防火警覺，嚴防森林大火。						
8. 國際登山山道皆為無法預測的危險，如暴雨突降、落石、雪崩、雷電、風暴等，請周延準備以策安全。						
9. 出發前請至本處網站( <a href="http://www.esppn.gov.tw/">http://www.esppn.gov.tw/</a> )了解最新開放情形，有關登高資訊發佈、森林火災及中颱風警報時，管理處得另行發佈緊急指揮禁止進入，已於該期間獲許可進入者，本許可證所有行程自動廢止，並請至國家公園引導至安全地點。						
10. 如發現違法伐木、獵捕、或有其他違規行為，請聯絡本處037-966100 武陵04-25901316 鏡面站037-2763000 電信037-962188。						
11. 莊登大霸尖山必須在上午8時至18時之間進入，並禁止攀登上大霸尖山巔頂，申請住宿九九山莊者，核准後請持入園許可證，於07:00-17:00至觀霧國家森林遊樂區遊樂中心服務台現場繳費，並繳交治山處電話037-272913或037-272917。						
12. 九九山莊收費標準為每人每夜清潔費用台幣200元整。除九九山莊須向新竹林區管理處繳費外，其他山莊、營地均不收費。						
備註：						
隊員名冊						
序號	職稱	姓名	國籍	出生年	身分證字號	查核
1	領隊					<input type="checkbox"/>
2	隊員					<input type="checkbox"/>
3	隊員					<input type="checkbox"/>
4	隊員					<input type="checkbox"/>
5	隊員					<input type="checkbox"/>
6	隊員					<input type="checkbox"/>
7	隊員					<input type="checkbox"/>
8	隊員					<input type="checkbox"/>

入山證請向警察署(02-23577377)或就近縣市警察局上班時間(08:30~17:30)辦理。

(図 2) 雪霸國家公園入園証

なかなか許可が取れないこともある。玉山については、非常に多くの入山希望があり、抽選制度になっている。但し、玉山主峰の一泊二日コースについては、日本人を含む海外登山者に対し外国人枠があり抽選ではなく申請できる。台北近くの陽明山山系はいわゆる郊山であるが、礑嘴山など一部は陽明山国家公園の自然保護対象地域になっているので、事前申請が必要な場所がある。

国家公園の許可以外に、入山許可書が必要な場所もある。入山許可書は各地方自治体警察局の管理下である。入山3日前までにネット上で、或いは現地近くの警察局にて申請する。近年の中央政府の山林開放政策によって、新竹県、苗栗県、台中市などいくつかの地方警察局は入山許可制度を廃止した。その他、林務局の自然保護地域の山域に行く場合には、許可申請が必要である。

日本で一般的な登山届に相当するものはない。但

し、国家公園入園許可や入山許可が必要な山域についてはその申請内容にルートの記載があるので、実質的な登山届となっている。

## 登山資料

日本のような登山ガイドブックはあるが、それほど多くない。地図は一般的な5万分の1地図など以外に、百岳登山ルートを中心とする登山地図集が販売されてきたが、それに加えて中級山の広範な地域をカバーする地図集も出てきている。

一方、ネット上の資料は多くなってきている。国家公園や林務局は、自分の管轄地域のルートについて、ネット上で記載している。登山者自身によるネット上の体験記録開示や、健行筆記WEBサイト<sup>(3)</sup>にある様々な登山ルート紹介や体験記事などが広くシェアされている。残念ながら、日本語での台湾登山ガイド資料は、今のところ少ない。

登山ルートのグレーディングについては、国家公園などで困難度を示す方法が示されているが、日本のグレーディングのような統一的なものは存在せず、模索中というところだ。

## 登山に要する費用

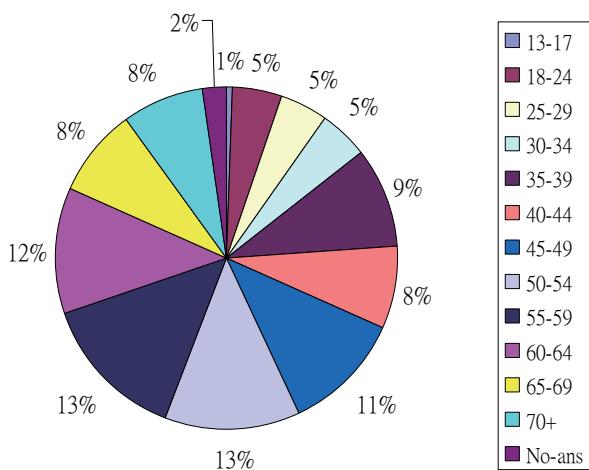
山小屋は、少数を除いて無料である。野営地も、一般的な登山ルート上のものは無料である。したがって、山岳旅行社などの商業登山活動に参加する以外は、食料などの消耗品費、交通費と登山保険が主な出費費用となる。台湾の一般交通機関は、日本に比べるとまだ安い。台北など大都市付近の郊山であれば、往復百～3百元ほどで済んでしまう。大都市から登山口までの往復サービスは、乗客8人乗りの車で単日8千～1万元、往復別々の日になる場合は、

## 2. 登山界の現状と課題

1万2千～1万6千元ぐらいである。将来は利用頻度の高まりと、設備の向上のため、山小屋や野営地の維持管理について公的財政だけでなく、費用発生ということが十分考えられるが、現状では登山は比較的安く行える運動である。

### (2) 登山人口と登山者形態

台湾政府部門による、13歳以上を対象とする約2万5千人サンプリングの台湾国民運動現状調査<sup>(4)</sup>に基づいて計算すると、台湾の登山人口は約200万人と推測される。台湾も日本同様、少子化が進みここ数年全人口約2300万でほとんど変動がない。つまり登山人口は全国民の約一割弱という数字で、これも変動が少ない。男女はほぼ半々である。年齢別にみると、40歳以上中高年が約四分の三を占める(図3)。最近は、新型コロナ疫病のために海外旅行がままならず、国内旅行の延長として登山をする人も多いようで、35～40歳の壮年層の登山人口比率が若干増えているようだ。



(図3) 2021年年齢別登山人口比

上記の調査は、登山者の登山頻度についての分析はない。国家公園入園許可など申請が必要な山域での申請数が、特に人気ルートではここ二年で倍増している。また筆者が最近感じている山中での登山者増加は、おそらく登山人口そのものの大幅な増加は

ないが、登山頻度が高くなり、或いは困難度のより高い登山を試みる登山者が増えているためと推測する。

### 登山者形態

登山許可制度が厳しく施行されていた1980年代半ばまでの戒厳令時代は、山に入るには学校山岳部や民間登山団体でないと許可が取れないため、こうした団体が登山の主体であった。その後、入山許可要件の緩和に伴い、また若者の興味の変化、或いは登山団体の高齢化などにより、一般民衆が自分グループを組み登山をするような状態に変化している。民営山岳旅行社も設立され、主に人気ルートを中心に商業登山が行われている。さらに、ネットを通じて登山直前にパーティを組み、登山口往復の車代をシェアするようなケースも増えている。それはそれで、日本と同様に問題も起きている。

山岳を駆け抜けるトレイルランは、ここ数年人気がでてきて参加者も増えつつある。トレイルランの行事も催されるようになってきている。個人では3,4日かかる高山ルートを一日で走り終えるというランナーも出始めている。

ロッククライミングは、ボルタリングの普及と相まって増えている。現状では、野外のロッククライミングルートは、日本に比べると少ないようだ。沢登りも、特に暑い時期には多く行われている。高山の沢はとても奥深く、この地域で活動している登山者は少ない。近年はキャニオニングが人気を博している。

### 登山ガイド

台湾の登山ガイドは、旅行社等による商業登山活動の主に高山などの人気主要ルートのガイドとして、行動中の道案内、宿泊地での手配、緊急時の対応をしている。協作と呼ばれる業務は、ボッカ或いは宿

泊地での食事まかないを担当する人で、ガイドとは別の存在である。ガイド資格については、公的組織の認定はまだなく、一部私的組織の訓練とその認定はある。また、特に登山に多く関与する山岳原住民の地域において、その地域だけの協会的存在の組織はある。一般的なガイドの料金水準は、一日あたり見習いで2千～3千元、一般ガイドで3千～4千元、さらに特殊なルートや講師レベルでは6千元ぐらいまでがある、という。具体的には、それぞれの組織やグループでルートや日数などに応じた料金体系となっている。

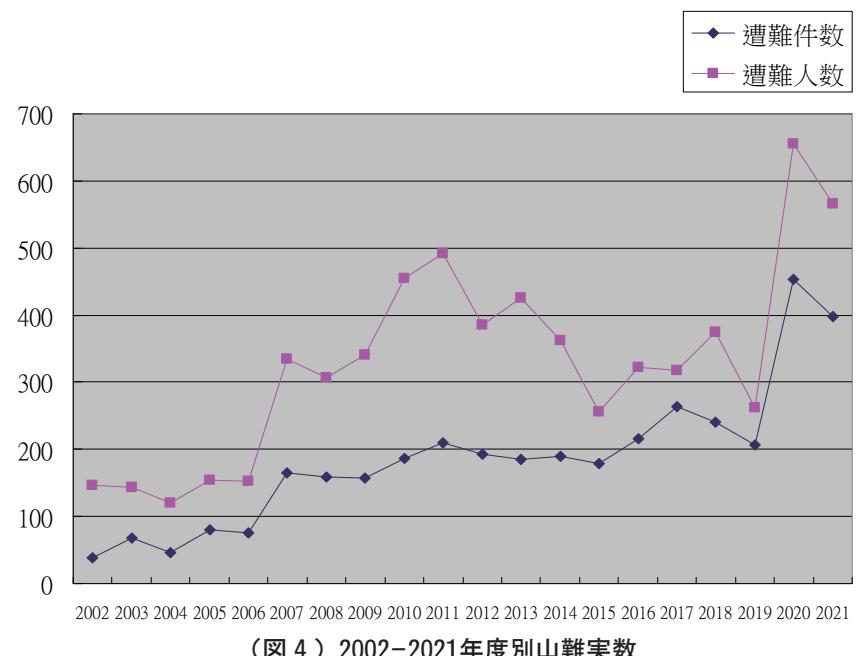
### 登山関連団体

現在登山に関する四大協会と呼ばれる組織があり、公式行事などで関連している。具体的には中華民國山岳協會、中華民國健行登山會、台灣山岳文教協會、中華民國山難救助協會がある。毎年の登山研討會は、台灣山岳文教協會が企画運営している。ただ、メンバーの高齢化が進んでいる。一方、ハイキングルートなどで台灣千里步道協會が活躍している。

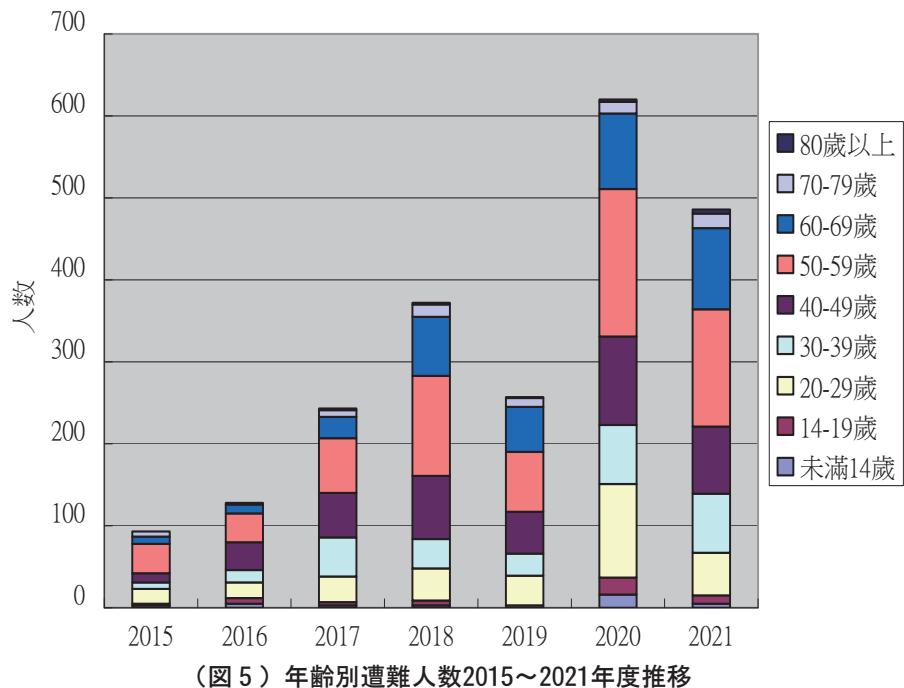
### (3) 遭難事故・搜索救助及び登山保険 遭難事故の現状

登山には、残念ながら遭難事故は避けて通れない。台灣の遭難事故通知後の対応主体は消防署である。消防署の報告<sup>(5)</sup>によると、登山並びに山岳での調査研究や山菜取りなどの野外活動中に発生した2021年度の遭難事故は、398件566人である。過去20年間の記録

では、発生件数は増加し、特に最近二年は急増している(図4)。新型コロナによる海外旅行制限が、登山を含む国内旅行の増加をもたらし、結果として不慣れな登山者が事故に遭うとうシナリオになっているようだ。2020年の454件655人に比べ減少しているのは、同年5月半ばから約2カ月登山も行動制限対象となり、入山者数が減少していることが関係している。制限解除後また件数が増加した。



(図4) 2002–2021年度別山難実数



(図5) 年齢別遭難人数2015～2021年度推移

## 2. 登山界の現状と課題

過去20年間の総計では、遭難者の92.6%が救助され、5.9%が死亡している。行方不明者は1.4%である。

一方、年齢別でみると、過去五年の分析では約7割が40歳以上の中高齢者である（図5）。遭難原因としては、道迷いが41%、負傷17%、谷滑落11%、疾患10%と続く。登山者形態としては、7割が自主組成パーティで、単独登山17%が二番目になる。学校活動や登山団体は二つを合わせて約11%である。上述のように、登山技術的に未熟な登山者だけでパーティを組んだり、或いは交通費節約のために組んだ俄かパーティなどが、この現象の背後にあると推察される。特に最近急増している、ちょっとした岩場登攀がある台湾北部劍龍棲、台中谷關七雄と呼ばれる入門クラスの中級山、或いはアクセスが簡単な高山合歡山での事故が増えてるのは、それを裏付けている。

遭難場所としては7割が林務局管轄内、その次に國家公園管轄内が27%となり、その他は微少である。

遭難事故増加は、ニュースメディアの報道により、一般市民も関心が高い。特にヘリコプター出動や大掛かりな捜索活動による費用の公的負担について、批判的な声もある。また2011年に起きた台湾中部高山白姑太山での遭難事故は、捜索に50日を要して遺体収容し終了した。その後家族による国家賠償訴訟が行われ、一审では政府側に不備があるとして損害賠償の決定がなされたが、2015年に二審でその判定が覆された。当案件は山岳界だけでなく一般社会にも大きな波紋を呼び、捜索救助はいかになさるべきか、費用などについての議論を呼んだ。

この背景から、翌年に台中市、花蓮縣、南投縣など多くの山岳を抱える地方自治体は登山などに関する罰金などの刑罰を含む条例を議決し、その捜索救

助費用を請求できる法的根拠を設けた。その後、苗栗縣、屏東縣、高雄市もそれぞれ条例を制定した。この条例により捜索救助に要した費用について、地方自治体は被救助者に対しその費用請求ができる。これらの条例は、登山に関する歴史的思考延長で、登山活動に対し制限や禁止をかける性格があり、2018年に中央政府が発表した山林開放で国民が自然や登山に親しむことを奨励する方針とは矛盾することから、議論がある。

### 登山保険

登山保険制度は、保険会社が捜索救助費用を含む生命傷害の登山保険を提供している。保障額は死亡や重大障害で200万元、医療実費最大20万元、捜索救助費用は10万～100万元というところである（國泰人壽保険会社の例）。保険料は日数と保障額で異なるが、一般的な登山では百数十～数百元である。上述地方自体条例では、入山に際し許可書を取得しているかないかで、その費用請求は登山保険の捜索救助費用を上限とするか、或いはそれを越える額の請求ができるかについても触れている。

### (4) 今後の課題

台湾は雄大なそして魅力的な山岳自然を有している。しかし、歴史的な背景から一般大衆にとって、登山は危険な或いは遠い存在であり、国民の自然資源を有効に利用していなかった。この傾向は、変わりつつある。数年前の山林開放政策は、それを物語っている。

本格的に登山をする登山者が増えている。一方、上記のように山岳での遭難も増えている。台湾の山岳界は、大衆に対し国民一般の健康増進の効果などをはじめ登山活動の利点をアピールする一方、安全な登山を実現するため、登山ルートの難易度明示シ

ステムをはじめ、登山に関する教育を強化し、その浸透を図っていく必要があることを認識している。設備的にも最近2カ所の山小屋が完成し、さらに2カ所が建設中である。これは山林開放政策の一環である。

毎年行われる全国登山研討會では、各方面からの報告や議論が活発に行われている<sup>(6)</sup>。全国連合登山活動が毎年開催されている。その他登山や山岳自然或いは山岳歴史などに関するセミナーなどもしばしば行われている。特に民主化が進んで台湾人の自分の国土に対する認識の高まりにつれ、歴史地理への関心がその背景にある。

山は遠い存在であった台湾一般大衆にとって、登山に関する活動や教育は、高等教育での山岳部、救國團<sup>(7)</sup>開催の台灣島横断路ハイキングなどを除いて、ほとんどなかった。日本で見る小中学校の団体登山などは、皆無に近かった。しかしそれは見直しの機運がある。政府担当部門では、将来の自然教育や付

帶する山岳活動教育などについての、検討作業がある。卑近な例として、最近では幼い子供を連れての登山者が見受けられるようになってきている。

#### 4. 結語

振り返り、日本人登山者にとっての台湾山岳登山はいかなる意義があるのだろうか。もちろん自然に触ることは、日本国内での登山と同じに第一義である。まだ粗削りな台湾の山岳環境は、チャレンジしがいが十分にある。台湾は、それに加え50年間領土であったことによる、日本近代史が山岳に残っている。世界広しといえども、このような日本人にとっての歴史的意義を登山活動中に見いだされるところは、多くない。今を去ること数十年、日本登山界の大先輩が情熱をもって挑んだ台湾の山々を、多くの日本人登山者が登り体験してほしいと切に願う。

- 
- (1) 台湾第二の高峰、現在は雪山と呼ばれる
  - (2) 台湾の林業は、日本統治時代に始まり1980年代でほぼ終了している。特に戦後ではかなりの高山や中級山の奥まで林道が開かれた。しかしコストなどの理由で、林道は一部を除いてほとんどメンテされていない。
  - (3) 台湾でよく使われている登山ハイキングのインターネットサイトの一つ：<https://hiking.biji.co/>
  - (4) 中央政府教育部體育署中華民國運動現況調査(民國101~105年各年度版)及び同中華民國運動現況調査結案報告(106年~110年各年度版)  
\*民國101年=西暦2012年
  - (5) 中央政府内政部消防署110年山域事故案件概況、同109年山域事故救援統計分析、同107年山域事故救援統計
  - (6) 2022年度の全國登山研討會には日本国立鹿屋体育大学の山本正嘉教授が出席し、登山運動生理学に基づいた登山に関する研究や実際の応用について発表された。
  - (7) 中國青年救國團 戦後国民党政府のもと反共の軍事政治的な意図から組織された団体。その後政治色彩は薄れたが、各種の活動を行っている。

\*写真2-1、2-2、2-4は鄭安曇國立台中教育大學副教授（台湾歴史、特に古道や隘勇線など山岳関連の歴史）のコレクション、使用承諾済み